

# 第3次飯南町総合振興計画

飯南町デジタル田園都市構想総合戦略

(案)

令和6年 月  
飯 南 町









# 第 1 章

## 序 論



# 1. 総合振興計画・総合戦略の経緯

総合振興計画は、町政の総合的かつ長期的な指針であり、まちの目指すべき姿とその実現のために取り組むべきことを定める、まちが取り組む計画における最上位の計画です。

本町では、「第2次飯南町総合振興計画 基本構想」（2016（平成28）年度から2024（令和6）年度/9年間）を策定し、「小さな田舎からの『生命地域』宣言」を理念に、「笑顔あふれるまち飯南町」を将来像としてまちづくりを進めてきました。

また、同時に人口減少と地域経済縮小の克服、地方創生に対応するため「第1期及び第2期飯南町総合戦略」を策定し、総合振興計画とともに一体的に取り組んできました。これに基づき第2期総合戦略では「つながり」「こども」「しごと」「定住」の4つの具体的なまちの姿を掲げ、各種事業を推進してきました。

総合戦略により推進してきた取組は一定の成果をあげていますが、人口は現在、長期的な目標として示した将来展望人口（「飯南町人口ビジョン」令和2年3月改訂）を下回って推移しており、地方創生に一層注力していく必要があります。

## 2. 策定の趣旨

現在の総合振興計画が、令和6（2024）年度をもって計画期間の終了を迎えるにあたり、今後の持続可能な行政運営のもと、中長期的な視点に立って、総合的かつ計画的にまちづくりを進める必要があることから、令和7（2025）年度を初年度とする「第3次飯南町総合振興計画（以下「本計画」という。）」を策定することとなりました。

また、国においては令和4（2022）年12月に従来の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、デジタル技術を地方の社会課題解決の鍵として「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が閣議決定されています。本町においても、これまでの取組を今後はデジタルの力を活用しながら継承・発展させていくことが重要です。

こうしたことをふまえ、人口減少や少子高齢化が進むなか、誰もが飯南町での幸せを感じられる持続可能な地域をつくるため、本町が抱える地域課題の解決や総合戦略の趣旨をふまえ、人口対策に必要な中長期的な施策の基本的方向を具体的にまとめ、住民、地域、団体、企業、行政などまち全体で共有して推進する新たなまちづくりの指針として本計画を策定します。



### 3. 策定方針

本計画は、「基本構想」「基本計画（デジタル田園都市構想総合戦略）」「実施計画」の3つの層で構成されており、それぞれ次のような内容と期間とします。

#### 計画の内容

##### 基本構想

令和16年度を目標年度として、目指すべきまちの将来像と実現のための基本的な方向性を示しています。

##### 基本計画

基本構想を実現するために推進する施策を示しています。社会情勢をふまえ5年後に見直しを行います。政策分野別に策定している個別計画もここに位置付けます。

##### デジタル田園都市構想総合戦略

人口の将来見通しをふまえたうえで、地域の社会課題解決や魅力向上を図るための施策を示します。

##### 実施計画

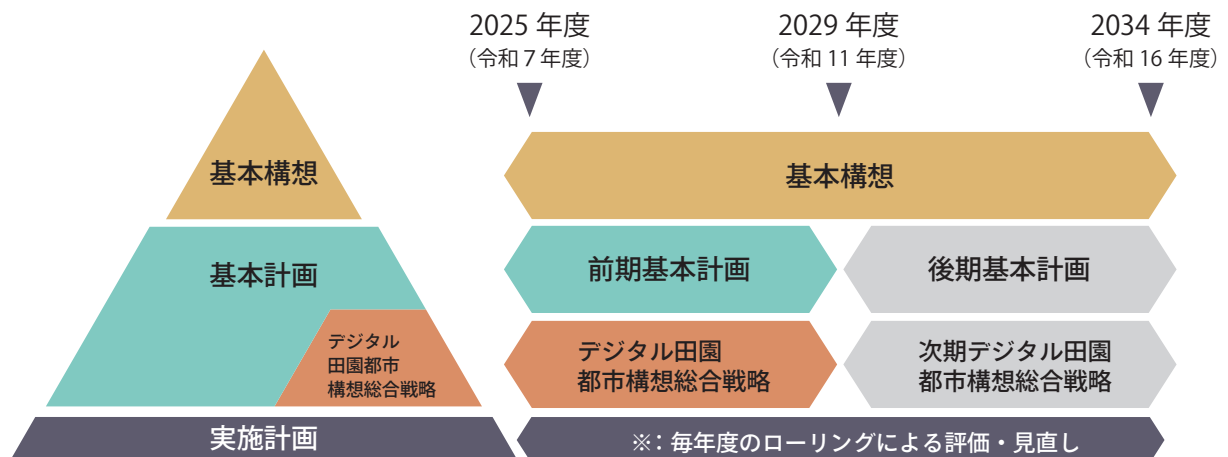
基本計画で定めた施策を実施するための具体的な事業を示します。

#### 計画期間

基本構想：令和7年度～16年度（10カ年）

前期基本計画：令和7年度～11年度（5カ年）

デジタル田園都市構想総合戦略：令和7年度～11年度（5カ年）





# 第 2 章

## 基本構想



## 4. まちづくりの基本理念

### 飯南町の基本理念

# 小さな田舎からの『生命地域』宣言

飯南町は、小さなまちです。

しかし、生命湛える源流があります。

美しい里山があります。

そして、これらの恵みを活かした日々の営みが守られてきました。

私たちが守ってきたこの里山の恵みは、

人々が心豊かな暮らしを実現し、新しい価値を生み出すための源泉となります。

豊かさの“消費”から心の豊かさの“創造”へ、

未来に向かってまだまだ進化していく余白があります。

新しい豊かさの先進地として、

今ここに「小さな田舎からの『生命地域』」をあらためて宣言します。

## 5. まちづくりの将来像

### 飯南町の将来像

支持の多かった案1を踏襲

## 笑顔と誇りを未来へつなぐまち 飯南 ～豊かさの継承と創造への挑戦～

空を映す水田、夕陽に染まる山々、雪の綿帽子。  
子どもたちの声や囃子の音色、祭りの賑わい。  
人と自然が共生する豊かさ。  
自分らしく暮らす豊かさ。

そんな豊かさを未来につなぎ、  
このまちで学び育った子どもたちが、  
新しい価値観でこれからの豊かさを創造する。

誰もが10年後も笑顔でいられるよう  
まちに住む人、関わる人が力をあわせ、  
豊かで持続可能なまちを飯南町は目指します。

「案1:持続可能性」  
+「案3:余白=新しい価値の創造」  
の意味合いをミックス。  
先人から受け継いできた自然、文化、  
心豊かな暮らしを継承しながら、  
新しい豊かさの創造を目指す。

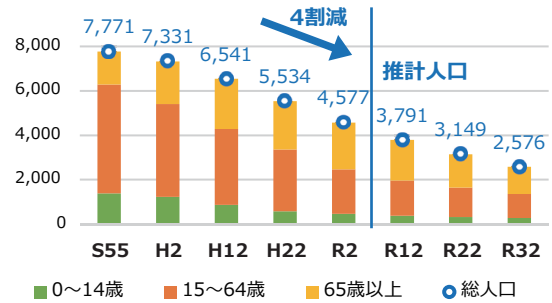
## 6. 飯南町を取り巻く課題

# 1

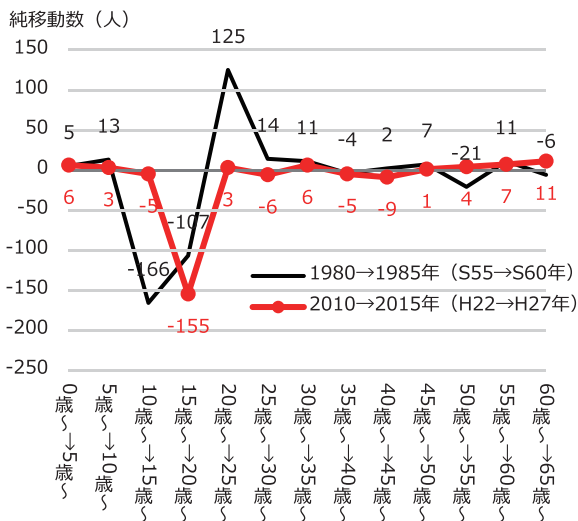
### 急速な人口減少

本町では、総人口7,771人だった昭和55年から、令和2年までの40年間に総人口が4割(3,194人)減少しています。平成22年からは平均100人/年が減少し、令和2年には4,577人となりました。令和32年には、さらに4割が減少すると推計されており、このままではまちの持続可能性に大きな影響を及ぼします。

飯南町の年齢3区分人口と将来推計



年齢5歳階級別の人口の移動状況の推移



# 2

### 少子化と担い手世代の流出

同じ昭和55年から令和2年の間に年少人口は7割減少しており、総人口より早いペースで減少しています。第2次ベビーブーム直後である昭和50年では102人だった出生数は、令和元年から令和5年までの5年間で平均〇〇人/年まで減少しました。

また、人口移動をみると1980年代では中学校卒業時に一度町外に転出超過となった人口が、就職などにより20代前半に町内に再び戻り転入超過となっていました。2000年代になると、戻ることが少なくなり、20代前半で転入超過となることなくなくなりました。

このように、就職時に町内に戻ってくる若者が減少することで、さらに少子高齢化が加速することが考えられます。

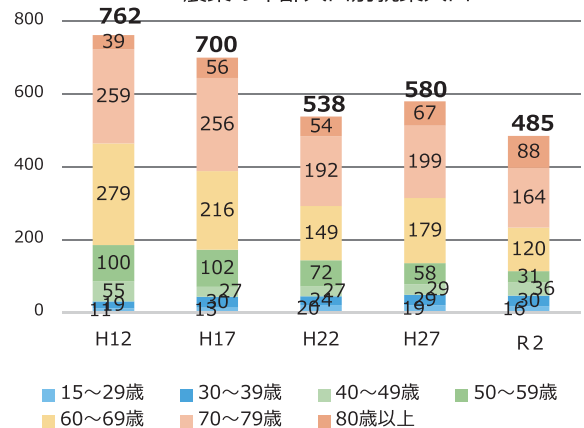
# 3

### 産業の担い手の高齢化・地域経済の縮小

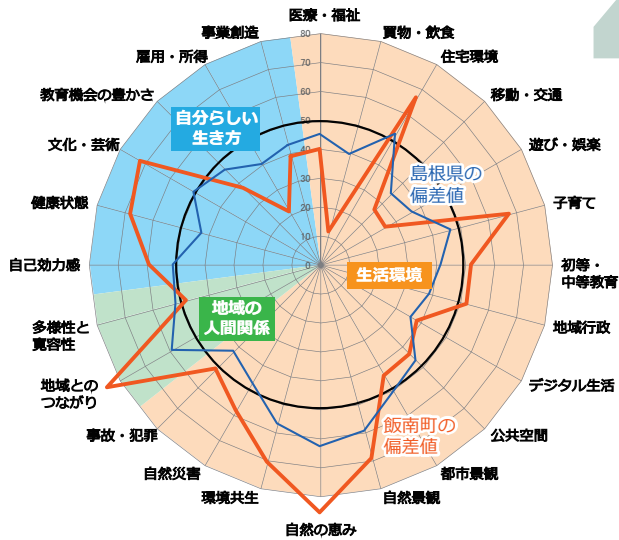
出生数の減少や若者の町外流出により、本町の生産年齢人口は昭和55年から、令和2年までの40年間に6割減少しており、あらゆる産業分野における担い手確保が一層困難になることが考えられます。

本町の基盤産業である農業の就業人数は8割が60歳以上であり、40歳以下は10%に満たない状況です。このほかの産業分野でもこのような担い手の高齢化が進んでおり、この状況がさらに深刻化すれば、地域の経済活動はさらに縮小することが考えられます。

農業の年齢人口別就業人口



## 主観的に見た飯南町の暮らしやすさの評価



# 4

## 自分らしく暮らし 続けられることへの ニーズの高まり

18歳から59歳までの住民500人に、飯南町での暮らしに対する幸福度・満足度について意識調査したところ、暮らしの幸福度は全国平均より高い結果となりましたが、満足度は医療・福祉、買い物、交通、デジタル生活、雇用などに対する主観的評価で特に低い評価となりました。

生活環境や地域福祉が将来的な幸福度にも影響している可能性があり、誰もが安心して自分らしく暮らし続けられるまちづくりへのニーズが高まっています。

# 5

## 文化・地域資源の継承・ 新しい価値創造への要請

本町では、出雲大社神楽殿の大しめ縄の制作が行われるなど、しめ縄づくりの技法と伝統が受け継がれています。

また、各地区で行われる囃子奉納など、郷土の文化が根強く守られています。

中学生・高校生へのアンケート調査では、10年後の飯南町の姿として「自然環境・景観が保全されている」「伝統・祭り・歴史文化が継承されている」ことが望まれており、本町の伝統・文化、自然環境・景観を守り、生命地域宣言の理念のもと新しい価値を創造していくことが求められています。



# 6

## 生活の質を向上させる デジタル技術活用の必要性

デジタル技術の進展により、一人ひとりの状況に応じたきめ細かいサービスが低コストで提供できるようになり、多様化する消費者ニーズに応え、生活の利便性を向上するためには、デジタル技術の活用が必要不可欠となっています。

しかし、町内では70代以降の5割の方がインターネットを利用しておらず、デジタル技術活用による多様なサービスを楽しむことができません。

また、人口減少にともない担い手が縮小するなか、行政をはじめとするあらゆる産業分野における生産性の向上や省力化が急務となっており、スマート農業技術の普及や自治体DX推進が一層求められます。





## 7. 将来像を実現するための大切な考え方

# 1

### 人口減少社会に適応した 持続可能なまちをつくります

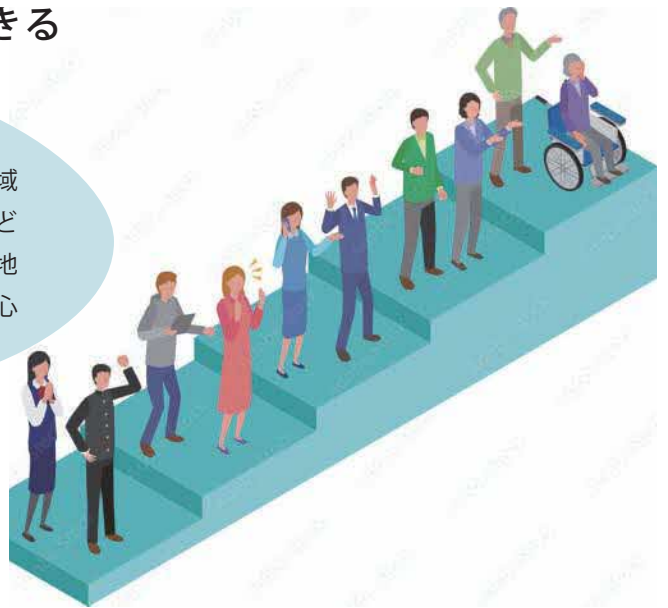
既存の課題だけでなく幅広い視点で未来を見据え、地方創生の取組を加速します。そして、次世代へ引き継げる持続可能なまちづくりを進めます。



# 2

### 世代を超えて誰もが活躍できる まちをつくります

高齢化が進展する本町では、高齢者の活躍が地域の活力となっています。高齢者だけでなく、子どもや若者、本町とつながる様々な人々が世代や地域の枠を超えて活躍できる場を広げることで、心豊かな暮らしを実現します。



# 3

### 産業を活性化させ、 仕事を確保・創出できるまちをつくります

若者がこのまちに住みたい、戻ってきたいと思えるためにも、地域の産業を活性化し働きがいのある環境を作ります。



# 4

## 誰もが、いつまでも健康で 安心・安全に暮らし続けられるまちをつくります



誰もがどんな時も、このまちで支えあいながら安心安全に暮らすことができるよう、ハード整備だけではなくソフト面でも生活の環境を整えていきます。



# 5

## 豊かな自然や誇れる文化、 地域資源を結びつけ新しい価値を生み出します

美しい里山や豊かな自然、地域で受け継がれてきた文化を継承し、価値を再評価していくとともに、これらの本町の魅力や資源から、心を豊かにする新しい価値を創造します。



# 6

## デジタルの力を活用し、 より便利に暮らせるまちをつくります

一人ひとりのニーズに応じたきめ細かいサービスを効率的に提供できるよう、デジタル技術を活用できる環境を整えるとともに、誰一人取り残さないための取組を進めます。



## 8. 施策体系（案）

基本構想		
基本理念	将来像	将来像を実現するための大切な考え方
小さな田舎からの『生命地域』宣言	(検討中)	<ol style="list-style-type: none"><li>1 人口減少社会に適応した持続可能なまちをつくります</li><li>2 世代を超えて誰もが活躍できるまちをつくります</li><li>3 産業を活性化させ、仕事を創出できるまちをつくります</li><li>4 誰もが、いつまでも健康で安心・安全に暮らし続けられるまちをつくります</li><li>5 豊かな自然や誇れる文化、地域資源を結びつけ新しい価値を生み出します</li><li>6 デジタルの力を活用し、より便利に暮らせるまちをつくります</li></ol>

基本計画

政策分野

I. 創造力のある未来の人づくり  
(子育て・教育・文化)

II. 誇れる産業と仕事づくり  
(産業振興)

III. 誰もが健やかな暮らしづくり  
(保健・医療・介護・福祉)

IV. 安心して暮らせる環境づくり  
(生活・防災・定住・自然環境)

V. 協働で進めるまちづくり  
(自治・行政運営)

総合戦略

地方創生・総合戦略に係る取組を重点プロジェクトとして設定

基本施策

施策体系(令和6年度策定)

## 9. 政策分野

### I. 創造力のある未来の人づくり (子育て・教育・文化)

- 子育て支援
- 教育環境
- 生涯学習
- 人権教育
- 歴史・文化

### II. 誇れる産業と仕事づくり (産業振興)

- 農林業
- 商工業
- 観光
- ブランド構築

### III. 誰もが健やかな暮らしづくり (保健・医療・介護・福祉)

- 健康づくり
- 地域医療
- 地域福祉
- 高齢者福祉
- 障がい者福祉

### IV. 安心して暮らせる環境づくり (生活・防災・定住・自然環境)

- ライフライン
- 公共交通
- ゴミ
- 情報通信網
- 消防・防災
- 防犯・交通安全
- 定住促進
- 自然環境
- 脱炭素

### V. 協働で進めるまちづくり (自治・行政運営)

- 地域づくり
- 小さな拠点
- 行政運営
- 自治体DX